

販売に活用する情報機器についての学習

— POSシステムの学習 —

京都府立城陽養護学校 通学高等部 教諭 山本 大助

e-mail yamamotoda@kyoto-be.ne.jp

キーワード：販売学習, 高等部, 作業学習, 知的障害, POS システム, バーコード

1. はじめに

1.1 本校概要

本校は、青谷梅林で有名な城陽市の南東部に位置し、深い緑に包まれた静かで美しく落ち着いた学舎がある、病弱教育部、重心教育部、通学高等部の3教育部からなる養護学校である。

1.2 通学高等部について

中学校を卒業した自主通学可能な軽度の知的障害生徒を対象に卒業後の職業自立をめざした教育を行っている。小学校の中学年から中学校の内容を学習する。社会的・職業的自立に向けて教育課程の編成をし、働くための基礎体力育成、習熟度別の教科学習、企業就職のための作業学習をおこなうことが特色である。

(1) 作業学習

生徒たちは一週間9時間の作業学習を3年間取り組み窯業・縫製・木工製品を作る。このホームページは昨年1期に3年生が作業学習で取り組んだ作業製品の一部である。パソコン部生徒がホームページとして紹介した。

(参考 URL <http://www1.kyoto-be.ne.jp/jyouyou-s/21new/sagyo1/index.html>)

(2) 販売学習

作業学習で製作した木工・窯業・縫製製品はスーパーマーケットや百貨店で生徒自身が販売する販売学習に取り組む。本年度9月に大丸京都店で、11月には関西地方の大手スーパーマーケットである平和堂アルプラザ城陽店で販売学習を実施した。このように生徒達は、在学時に製品販売をする機会がある。

(参考 URL <http://www.kyoto-be.ne.jp/jyouyou-s/21new/huresute1.html>)

(3) 現場実習の実習先

多くの生徒は卒業後、企業に就職する。会社に就職するための学習として産業現場等での実習が組まれている。本年度5月の現場実習の実習先をみると、スーパーマーケットや食品製造会社で実習する生徒が半数近くになった。

(4) バックヤードの仕事

写真1は生徒が現場実習でスーパーマーケットのバックヤードの仕事として肉のパック詰めをしている。バックヤードの仕事では、バーコードを作成しパック詰めした商品に貼り付ける仕事が必要である。コンピュータへの入力が簡単になることから今後、軽度の知的障害者が仕事でコンピュータを使う機会が増えると考えられる。



写真1 現場実習

2. 新学習指導要領との関連

2.1 職業

職業科目標の2段階(7)「職場で使われる機械やコンピュータ等の情報機器などの操作をする。」生徒が就職する多くの企業でコンピュータが使用されている。生徒は、バーコード読み取り機で簡単にコンピュータへの入力ができ、バーコード作成機が容易に扱えることから将来職場で使用する可能性が高いと考える。

2.2 情報

特別支援学校学習指導要領解説のなかで情報科の内容の指導にあたって、職業科との関連した指導の工夫に配慮することが大切と指摘している。そこで情報科の授業として取り組んだ。

通学高等部販売学習



写真2 メニュー画面

3. 学習指導計画

販売に活用する情報機器について、昨年9月から12月まで週1時間の情報科の時間を利用して学習指導計画を作成し学習をすすめた。

3.1 販売管理ソフトへの製品データ登録、領収書の内容設定作業

バーコード読み取り機を使うソフトとして販売管理ソフトを使用した。使用したソフトは、フリーソフト「ポスレジ君」というソフトである。アクセスというデータベースソフトで動くプログラムである。このソフトは、バー

コード読み取り機を使用することで販売だけではなく、仕入・在庫管理、販売集計、消費税額の算出も簡単にできる。写真2はソフトを立ち上げたときのメニュー画面である。デザインは、本校生徒向けに変更した。領収書発行の機能があり、店名や営業時間の案内等の情報を領収書に入れることができる。授業では製品データ（製品名、価格、数量）を登録した。

3. 2 バーコード作成ソフトによるバーコード作成作業 と印刷作業

バーコード作成には、「バー工房」というフリーソフトを使用した。写真3は作成例である。このソフトで作成したバーコードをラベルマイティというラベル作成ソフトに必要な大きさと枚数を印刷した。生徒達は、簡単にバーコードが作成、紙に印刷できることで歓声があがった。

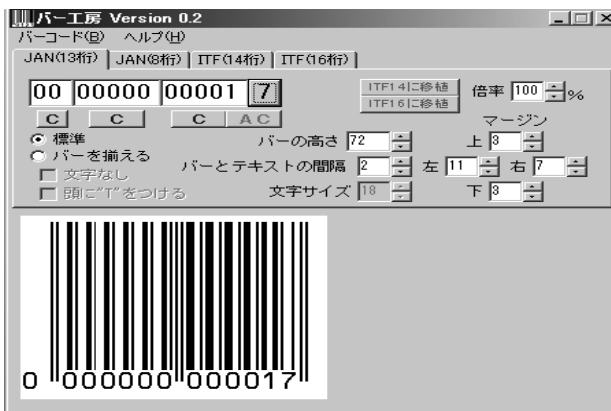


写真3 バーコード作成画面

3. 3 バーコード読取機による製品の読取作業

生徒達は、印刷されたバーコードを読取機で読み取っていった。読取作業に慣れてくると、教員はお客の役割をして、購入する製品名と数量、支払い金額を読み上げた。データ入力を正確さと速さを競い合わせることでの入力に真剣に取り組んだ。

3. 4 販売時点の売上情報収集と販売の分析

スーパーマーケットでの販売学習2日間の売上を時間別、製品別に販売管理ソフトで調べた。その結果、午前と午後の売り上げの比較から午前の2時間の売り上げの比率が非常に高いことがわかり、午後の売り上げの落ち込みの理由を予想することができた。写真4は販売管理ソフトで製品別売上集計を表示したところである。瞬時に売上の集計を製品別、時間ごとに表示できることがPOSシステムの優れた点であり、授業では生徒が容易に売上の比較をすることができた。



写真4 売上集計の表示

4. 情報活用能力育成の観点から

情報活用の実践力として、周辺機器であるプリンタやバーコード読取機の利用による情報の収集と処理、バーコード作成ソフト・ラベル作成ソフトを使って画像や文字を加工・表示・印刷作業を行うなど情報の加工・処理の力の育成に力を入れた。情報の科学的な理解する力の育成として、販売管理ソフトによる販売時点の売り上げ情報収集と販売の分析に取り組むことから、商品販売・仕入・在庫管理にコンピュータが重要な役割を果たしていることを学習した。

5. まとめ

電卓による四則計算の容易さと同じように、多くの商品や部材の管理を必要とする製造や流通の現場、コミュニケーションと計算力を必要とする販売の現場で、バーコード読取機につながったコンピュータは、知的障害者を支援するツールとして今後ますます活用される場が増えると予想される。生徒はバーコード読み取り機を使う経験は普段ない。だからこそ、この授業は生徒にとって貴重な経験として取り組んできた。

多くの生徒は授業が楽しかった、初めての経験に驚いたという感想をもっているが、ネットワークとのつながりは学習できていない。販売の現場で使用される多くのPOSシステムはサーバー用コンピュータにつながっている。情報が処理され販売の現場に生かされていることを指導したい。

評価については、作業の正確さと速度で評価した。POSシステムの売上集計からわかることを授業で調べたが、評価には生かされていない。今後、評価の方法についても検討したい。